

山大(石巻市潮見町2の3) 高橋暢介代表取締役社長)と石巻地区森林組合、宮城県東部地方振興事務所の3者が共催し、28日に石巻市北上町の樹木を伐採した「皆伐跡地」で再造林を目的としたスギの苗700本の植樹式を行った。

3者は2020年6月に締結した「石巻圏域における再造林促進に関する協定」に基づき、植樹を実施しており、今回が3回目の植樹となった。

当日は主催者のほか、東



あいさつする山大の高橋社長

## 山大、石巻地区森林組合、県

北ボーリング(仙台市若林区)、BXカネシン(東京都葛飾区新小岩)、ササキ設計(石巻市北上町)、サンホーム(仙台市太白区)、青葉環境保全(仙台市若林区)などから約40人が参加した。

山大が今年分として小花粉のスギ苗1200本を提供し、このうち700本分を北上町女川前田地内の皆伐跡地(区域面積0.35畝)に植栽。皆伐された木材は、仙台市若林区六丁目南で建設が進んでいる東北ボーリングの新社屋(W造2階建て、延べ964.15平方メートル)に使用されている。設計はササキ設計、施工はサンホームが担当。

植樹に先立ち、山大の高橋社長は「SDGs事業に伴い、社内でも再造林事業

# 皆伐跡地を再造林 石巻市でスギの苗を植樹

苗木を植える熊谷社長



がつているのは2割」と厳しい現状を紹介した上で「二酸化炭素の排出抑制やSDGsの推進という観点からも先進的かつ大変重要な取り組みとなつている」と活動の意義を強調した。

その後、参加者それぞれが、一本一本丁寧に苗植えを行った。作業を

が恒例として浸透してきたところ。これからもより多くの人たちが管内の山を再造林していきたい」と意気込みを語った。続けて県東部地方振興事務所の小林一裕所長が「県内で毎年約900畝の人工林が伐採されているが、再造林につな

終えた東北ボーリングの熊谷茂一代表取締役社長は「社屋建設に使用する木材を頂いた土地に、こうして木を返すことができた」と感慨深げに語った。なお今回植樹された苗木は、45年後に再度、皆伐を行う予定となつている。